



岩井美保子議員

いじめ問題への対応は

人間関係育成を重視

問 全国で教育（いじめ問題）に関する課題が問題化している。

(1) 町ではどのような対応を行っているか。

(2) 大山町での教育の問題点は何か。

(3) 町内の小中学校で「いじめ」があるか。

(4) 子どもの生命を守るためには、保護者が本気で問題に立ち向かうことが不可欠。教育長の考えは。

答 (山田教育長)

(1) 各小中学校で児童生徒へのアンケートや個別相談などを行い、「いじめ」の現状把握に努めている。

11月に文部科学大臣から出されたメッセージを、学級担任が読み上げ、補足を加えすべての子どもに意味が分かるよう伝え、他、県教育委員会からのメッセージ、教育相談窓口のパンフレットを保

護者に配布し、町教育委員会としても、児童生徒がいつでも相談できる体制をとり、プリントを配付し周知している。

(2) 子どもたちは成長する過程で、それぞれの地域社会、学校生活で仲間と出会い、人間関係を磨い

境の中で、人間関係をどう磨いていくかという課題を意識している。

教員の側も、児童生徒が少数だと指導力を発揮できるが、多人数クラスには対応しきれない者も中にはあり、今年度設置した教育研究所を中心

に、教職員の指導力向上のための研修を重ねている。

しかし、学校生活のさまざまな人間関係の中で、摩擦やトラブルは当然あり、「いじめ」は常に起こり得ると考えている。

大切なのは、子どもが一人苦しんでいる場合に、周囲がいち早くそれをキヤッチし解決していくことであり、そうした経験を積むことで、子どもが人間関係を広げる力にな

ると考え取り組んでいる。

(4) 親の子育て観は大切なことと考えている。「子育てセミナー」などを通じて、子育ての苦しきだけでなく、楽しさや大切さを紹介していきたい。

また、「読み聞かせボランティア」や高齢者との交流など、地域のマンパワーも借りながら、子育てを支援していきたい。



町内ではいじめの報告はないという。

空き校舎の活用は

将来的には

まちづくりの拠点に

問 名和小学校の統合で、旧光徳・庄内の小学校舎及び敷地はどのように活用されるか。

広報だいせん7月号で、町民にアイデアを募集した結果はどうだったか。

答 (山田教育長)

校舎の有効活用について6名から提案があった。公民館や図書館、歴史資料館、文化団体の活動拠点、体力づくりの拠点、

あるいは教育委員会事務局が移転したらどうかなどの提案をいただいた。

1月の教育委員会で結論を出し、町長に提案する予定にしている。

教育研究所や町史編さん室、文化財整理室に一部を活用する方向で検討している。将来的には、町づくりの拠点、社会教育施設、保育所などへの利用も考慮し、有効活用を図っていきたい。